

### 第3回八戸市市政評価委員会会議録

日 時 平成21年6月16日 午前10時30分  
場 所 八戸市庁別館6階 会議室  
出席委員 4名 辻委員長、上田委員、関委員、藤村委員（欠席：蛇口副委員長、吉田委員）  
事務局 大坪総合政策部次長、石田政策推進課長、佐々木主幹、谷崎主査、大村主事

#### 1. 開 会（午前10時30分）

●司 会 それでは本日は大変お忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。それではただ今から、第3回八戸市市政評価委員会を開催いたします。

本日の会議でございますが委員6名中4名の方が出席ということで、八戸市市政評価委員会設置要綱第6条第2項によりまして、会議が成立することを報告いたします。

それでは本日の会議は、お手元の次第に沿って進めさせていただきたいと思っております。それでは資料の確認をいたします。本日の資料は次第、それから席図、資料8 マニフェスト評価書（案）、そして資料9 マニフェスト評価のルール（案）について、資料10 パブリックコメントの実施について（案）となっております。資料に過不足等ございませんでしょうか、よろしいでしょうか。

それでは議事に入ります前に、辻委員長からご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

●委員長 はい、どうも今日はありがとうございます。前回およその評価の進め方を決めまして、それが前半の山だとすると今日がいよいよ本番で、今日は評価内容を一つずつ確認して、議論をしていきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

一応会議は、皆さんの方にあらかじめ1時間半と連絡あったかもしれないのですが、ちょっと1時間半だとなかなかこの厳しいと。この後、仕事がある方がいらっしゃるかもしれませんが、もしかすると最大限1時間程度延びるかもしれないので、どうかご協力の方よろしくお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

●司 会 はい、ありがとうございました。それでは引き続き委員長に議事の進行をよろしくお願いいたします。

#### 2. 審 議

●委員長 はい、それでは議長を務めさせていただきます。早速、審議に入ります。それではまず、これからの作業方法ですね、今日の進め方を確認する上で、マニフェスト評価のルールについて、審議案件1です。これについて事務局から説明してもらおうと思っております。よろしくお願いいたします。

●事務局 資料9のマニフェスト評価のルール(案)についてご説明させていただきます。この資料はマニフェスト項目毎の評価方法をルール化したものでございまして、まず1番上の評価例は24マニフェスト項目毎に、公約事業及び数値目標の評価など、各項目の評価と全体評価を示したものでございます。それでは下がりにまして1の評価要素といたしまして、それぞれの項目の内容評価方法について順にご説明いたします。

まず1番、公約事業の実施率についてですけれども、実施率の算式はマニフェスト項目に関連する実施事業、これは実施済プラス実施中の事業となりますが、これを全事業数で割ったものでございます。そして評価方法につきましては、公約事業はマニフェスト掲載事項であるということから、通常の5段階評価の設定より厳しく設定しております、公約50%の状態をC、普通の区分の下限といたしまして、また100%に達した状態のみをAの達成ということで、右表のとおりAからEの評価を設定してございます。

次に関連指標でございまして、関連指標は数値目標、その他指標、満足度で構成しております、1)の数値目標の達成率につきましては、マニフェスト項目に関連する数値目標の最新値を数値目標の目標値で割ったものとなっております、数値目標の達成状況を示してございます。

そして評価方法につきましては、数値目標の達成率となるとしてございます。

それから次に下にさがりまして、2)その他指標ですけれども、これは委員会が独自に設定した指標でございまして、その指標の内容としましては、八戸市と他団体、国・県・他市との比較ができる指標、これは項目によって一つあるいは複数ございます。例といたしまして、県内主要駅の1日平均乗車人員、人口10万人当たりの市内医師数などでございます。そしてその評価方法といたしましては、まずイ)をご覧になっていただきたいのですが、指標に絶対水準または最低水準がある場合は、市の数値をその水準と比較をする。上記イ)の水準が設定できない場合、あるいは上記イ)の水準に達していない場合は、市の数値と他団体、国・県・他市の数値を比較するというところで、分かりにくいかもしれませんが、2ページをご覧いただきたいと思っております。

2ページでございまして、ただ今説明いたしました評価方法をまとめたものが1番上の点線の中の内容でございまして、まずAは市の数値が絶対水準以上の場合、そしてBは他団体より全て上回っている場合、C他団体と同水準の場合、Dは他団体より全て下回った場合、Eは市の数値が最低水準以下の場合という5段階の設定をしてございます。ここでまだ少し分かりにくいかなと思いますので、それでは資料8のマニフェスト評価書案をご覧いただきたいと思っております。両方見比べながらということになります。103ページになります。この103ページにつきましては、行革大綱の策定、無駄の削減と民間委託の推進という項目でございまして、②のまずは、これは比較値が三つほど設定されてございます。まず②が市職員数及び人口1,000人当たりの職員数ということでございまして、カッコの点線の中に、下の方にあります、平成19数値の比較ということで、八戸市は5.22人、全国平均7.82人、県平均7.75人で、これで比べますと八戸市が最も少なくなっております。ということでございまして、他団体よりも上回っているということで、先ほどご説明した評価でいきますとBということになります。

そして次の③経常収支比率でございまして。こちら点線、平成19数値の比較と出ていますが、八戸市88.5%、全国平均は92.0%、県平均93.4%で、八戸市が最も低くなっております。こちら先ほどと同様、評価はBということになります。

④の実質公債費比率でございます。こちら点線の中でございますが、平成 19 数値の比較で、八戸市 17.4%、全国平均 12.3%、県平均 17.2%ということで、八戸市が最も高くなってございます。こちらの場合は他団体よりも、全ての他団体よりも下回っているということで、評価はDということでございます。ここでお詫びをしなければなりません、事前に送らせてもらった資料には、この点線の中が入っておらなかったということがございますので、非常にわかり難い点があったことをここでお詫び申し上げたいと思います。ということで、先ほどの点線の中の評価というのは、こういった形で評価していくということになります。それから 103 ページそのまましていただきたいのですけれども、資料 9 の 2 ページの方をご覧になっていただきまして、2 ページの上から二つ目の点線の部分がございます。そちらの内容をご説明させていただきたいのですが、103 ページのようにその他の指標というのが複数ある場合がございます。こちらの点線の部分は、その指標が複数あって、評価が異なる場合の評価の方法というのを記したものでございます。ちなみに先ほど 103 ページの部分では、評価が B、B、D と分かれておりましたので、ここではローマ数字の i) のところで最も多い評価を採用するとなっているのですが、例が B、B、C になっていますけれども、この場合は B ですね。今の 103 ページの例が B、B、D ということで、こちら最も多い評価を採用するというので、こちらは B、B、D の中を評価した場合は B ということになってございます。

その 104 ページをご覧いただきますと、そちらがマニフェスト項目の上の部分の表ですけれども、関連指標の下のその他の指標のところは B、B、D という先ほどの評価でしたが、まとめてここが B という評価になってございます。というように各々こういった形で評価させていただいているところがございます。そして、またちょっと点線の方に、もう二つ目の方に戻っていただきたいのですが、ローマ数字の ii) の部分に評価が同数の場合、中央または低い方の評価を採用するというのでありまして、例えば例示を見ていただければ、B、C の場合は C を採用する、B、D の場合は C、そして B、B、C、C の場合は C、そして例として B、C、D の場合は C というふうにしてございます。

それから続きまして、次に 3) の満足度の得点でございます。まず得点の算式ですけども、満足度アンケート調査結果に基づく、マニフェスト項目毎の満足度を、十分満たされているを 3 点、まあまあ満たさせているを 2 点、あまり満たされていないを 1 点、そして満たされていないを 0 点といたしまして、当該回答者数で除した数値でございます。評価方法につきましては、ア) とイ) というふうに書いてありますが、二つの項目によって評価をするということでございまして、まずア) でございます。平成 21 年度満足度得点の対 19 年度比の増減ということで、矢印の上向きと下向きで表してございます。どちらかになります。そしてイ)の方は平成 21 年度の満足度得点の水準ということで、各々の項目ごとの平成 21 年度の満足度得点を記載しまして、これで評価をするという事としてございます。そして今までご説明いたしました部分の各項目の評価部分をまとめたものが、その下の表となっております。

それでは続きまして、次の 3 ページをお開きいただきたいと思います。さらに 2 ページの方の関連指標の評価でございます。こちらは 3 ページのですね、このページの 1 番下の例示の部分をご覧いただきたいと思います。関連指標につきましては、先ほどもご説明させていただきましたが数値目標、それからその他指標、満足度の三つの部門で構成されておりまして、ここではその他指標の (B) から A というような評価補正と、それから関連指標の総括評価という二つの評価方法についてご説明させていただきたいと思います。それでは上の (1) に戻りまして、満足度によるその他

指標の評価補正でございます。その他指標及び満足度は、マニフェスト項目の成果と完全に一致するものではないということで、満足度によってその他指標を補正するというものでございます。点線の中をご覧になっていただきたいのですが、補正①の一つは、補正①につきましては、満足度が増加傾向、矢印が上向きで、平成 21 年度の平均値が 1.19 以上あるもの、これは 1.19 というのは、このマニフェストの全項目の満足度の平均値でございます。そしてその場合、矢印が上向きで平均値が 1.19 以上ある場合は、その他指標の評価区分を 1 段階上方に補正するというルールであります。そして補正②といたしまして、満足度が減少傾向、つまり下向きの場合、それがかつ平成 21 年度の平均値が 1.19 未満のもの。すみません、ここで平均と書いてありますが、平成にご修正をお願いできれば大変助かります。そしてこの場合は、その他指標の評価区分を 1 段階下方補正すると、つまり満足度が下向きであってさらに平均値が 1.19 未満のもの、その場合は 1 段階下方の補正をする。その他のケースは、その他指標の補正を行わないとしてございます。つまり行なう場合は上向きで 1.19 以上の場合と、下向きで平均値が 1.19 未満の場合。この場合のケースだけ補正をすると。つまり上向きで 1.19 未満のものは補正をしないというところでございます。

下の例示をご覧いただきたいと思うのですが、その他指標のところは（B）から A になってございます。こちらは先ほどの補正の①により上方修正したものでございまして、当初のその他指標の評価は B だったのですけれども、満足度のところを見ていただきますと、矢印が上向きでかつ平均値の 1.19 を超えた 1.36 という得点でございまして、これを 1 段階補正して A ということにしてございます。

そして次に（2）関連指標の評価でございます。関連指標の評価は、マニフェスト掲載事項である数値目標達成率に比重を置きたいということでありまして、数値目標達成率と補正後のその他指標の評価により総括的に評価するものとしてございます。点線の中をご覧になっていただきたいのですが、①と②がございまして、①は数値目標でございます。②はその他指標ということで、ローマ数字の i) でご説明いたしますと、①部分の数値目標とその他指標の評価が同じ場合は、その評価になると。ちなみに、また例示に戻っていただきたいのですが、例示で見ますと、この場合は数値目標が A となつてございます。そしてその他指標の部分では、当初のその他指標の評価が B から A になつてございますということで、ここでいっているもの、関連指標を出す場合には、A と A を見て、そして関連指標を A にしましょうというそういうルールとしてございます。ちなみに今の数値目標とその他指標の評価が 1 段階違う場合、例でいたしますと A と B になった場合は A にしましょうと、そして数値目標と補正後のその他指標が 2 段階以上違う場合、その場合は中間評価としているのですが、例示の場合は A と D というふうになつてございます。この場合は中央がないということで、①寄りの評価ということで B というふうになつてございます。それからまた項目によっては、数値目標がない場合もございまして。その場合はその他指標の評価をそのまま関連指標にする、ということでございます。

それでちょっと今、こちらの例示でだいぶ紛らわしいようなところもございまして、少し簡単に流れをご説明いたしますと、まず公約事業のところの実施率を出します。そして次に数値目標、達成率がございまして、ここでまたその率を出します。そして次にその他指標の部分で、先ほどもご説明いたしました、水準と他市等の比較をした上で一度評価をいたします。そしてその上で、次に右側の満足度のところで、上向きで平均値以上の場合は 1 段階上方に評価するということとなります。その上で、数値目標とその他指標の補正後の数値を比較しまして、関連指標の総括の A とい

う数字を出します。こういった流れになるというところであります。

それでは、その他指標による補正を含めた関連指標の評価方法については以上となるのですけれども、次に4ページをお開きいただきまして、最後に全体の評価方法についてご説明をしたいと思っております。それでは3の全体評価についてです。マニフェスト項目の全体評価につきましては、公約事業の実施率と関連指標の評価の組み合わせによって行なうこととしてございまして、こちらも下の例示をご覧いただきたいと思うのですが、下の例示の場合は公約事業がBというふうになっていまして、関連指標が先ほど言った部分でやるとAとなります。そしてこのBとAを見まして、こちらの方も表がございまして、こちらに当てはめる事になります。縦の左側の部分が公約事業の評価ランクA・B・C・D・Eとございまして、今の例示でいきますと公約事業はB、そして上の横の関連指標の評価ランクを見ていただきますと、こちらはAということになっていまして、BとAということでこちらはAとすると、そういったマトリクスな表を作成してございまして。

それから今、こちらの方は例示が無いのですけれども、関連指標の部分の評価が無いというマニフェスト項目もございまして。その場合は、公約事業の実施率の評価を全体の評価といたしまして、括弧書き例えば(A)とか(B)とかになるのですが、そういった形で表記するという事にはございまして。ルールについての説明は以上でございまして。

●委員長 はい、以上のとおりですが、皆さん方いかがでしょうか。ちょっとルールだけを長々説明すると分かりづらいかもしれませんが、4ページの最後のマニフェスト項目の全体評価の組み合わせ表とあわせて見てほしいのですが、結局この二つの大きな柱があって、一つは公約事業の実施率ですね。これは要するに、公約したことに基づいて、単純にいうと市役所が実施したかどうかということを見る部分の指標になります。これに対して関連指標Aというところが、関連という言い方ですが、どちらかと言うと成果に近いことで、やったことに基づいてどのくらい成果が上がっているかということの評価する項目になります。このやったかやらなかったかということと、やったことがどのくらい成果を上げてきたかということとをトータルに評価して全体評価を求めよという、こういう構図になっているということです。これから、ここを細かく確認していただくこととなりますが、前回までの議論で大体ですね、公約事業の実施率、状況についてはほぼ間違いが無いのではないのかという形になっています。それから関連指標の中の数値目標ですね、これもこの数値目標自体が妥当かどうかというところの議論もありますが、しかし一応公約として掲げていますのでこれ自体はフィックスで、しかもある程度達成率も出てきます。となりますと、一番問題になってくるのが、あとのその他指標。これも一応前回は確認しましたが、しかし、こちらはこの委員会で決定したものですし、一覧していただいただけなので、もしかするとこのその他関連指標の中に、今回の成果を見るのに際してあまり相応しくないものですか、より相応しいものというのがあるかもしれません。それからこの満足度調査につきましては、今回の満足度調査はあくまでも総合計画の項目ごとにしたもので、このマニフェストごとに正確に聞いたものではないのです。したがって何と言うか援用している形になるのですね。したがって満足度指標の動きの中には、必ずしもこの中に完全にうまく反映しきれていないものが、中にはあるかも知れません。これらを総合して成果指標というのを考えることになっていまして、結果的に仮に、この最終的に全体指標を見ていただいて、全体指標が仮にあやしいと、おかしいというところがあるとすると、その犯人の可能性は元々数値目標自体の目標がおかしかったりするのか、それとも設定したはずのその他指標がおか

しいのか、それとも満足度指標の調査の仕方が今回この項目については、あまり相応しくなかったのかという追跡の仕方をする事になります。

それから今ちょっとルールを説明しましたが、その他指標のカウントの仕方、それから全体指標につきましては一応、一般的なルールに基づいて、一応算定式といいますかね、算定組み合わせを作りましたので、この算定組み合わせの作り方自体がですね、もしかすると全体の皆さんの感じと合わないところがあるのかも知れません。したがって、これから評価を見ていただく中で、まず自分の評価感覚と合うかどうか。合わない場合には、どこの計算の仕方が多分あやしいからこうなっているのかということをご提言いただくと修正しやすいという形になろうかと思えます。大体私の方から要点だけ再度説明させていただきますと以上のとおりですが、皆さんいかがでしょうか。

それから、ほぼこれから、これを基に文章も作っていますので、数字は正しいけれど文章が間違っているとか、意味のないことたくさん書いているとか、なるべく客観的に作ってもらったつもりですが、書き込むべきこと、ないしは必要以上のことを述べているところ等も是非指摘いただきたいというふうに思っております。

それではルールのところ、少し作業進めていただいて、進めた中で違和感があったらまたそこでご提示いただくということで、一応それでは次にルールを踏まえて審議案件2のマニフェスト評価書自体に移りたいというふうに思っています。今回皆さんに確認していただきまして、決定することになります。おそらく関連指標等で入れ替えが必要なものがたくさん出てきますと、もう一度委員会をやらなければならないと思っていますので、まあ違和感のない範囲で率直なところをですね、ご指摘いただけたらと思います。仮に今回確認して決定していただきまして、これをそのまま今後、パブリックコメントの方にまわすという形になります。一応皆さん方にあらかじめ送付しておりますが、時間がさほど取れなかったこともありまして、その後しかも今少し説明がありましたが、さらに精査して修正をしておりますので、変更点等含めてですね、事務局に説明していただくというふうに思っております。進め方としましては、マニフェスト項目ごとに区切って、順番に確認決定していきたいというふうに思っております。最初に事務局の方から簡単に内容を説明していただきまして、皆さんと評価案を確認し、できるだけその場で確認していきたいというふうに思っています。確認しきれなかったものはですね、後で議論するなり、委員会をもう一度やって、その疑問点を解決して進めたいというふうに思っています。

それでは、まず資料8のマニフェスト評価書を開いていただきまして、最初のところにですね2ページ、総括部分があります。総括部分はむしろ個別の評価ですね、各分野の8項目が終わった段階でもう一度戻って確認したいと思っておりますので、最初に4ページの1-①、来訪者・観光客の招致と御もてなしサービスの推進という部分から始めたいと思っております。それでは事務局、説明をお願いします。

●事務局 それでは1-①来訪者・観光客の招致と御もてなしサービスの推進についてということで、4ページから始まりますけれども、まず9ページをご覧ください。公約事業の実施率ですけれども、こちらにありますとおり、右側にありますけれども95.2%ということになってまいります。こちらは前回と変わってございません。次に10ページをお開きください。関連指標の部分ですけれども、まず一つ目、数値目標になりますが、観光客の入り込み数となっております。こちら目標値が当初設定の500万人台に対して、最新値が平成19年になりますが、573万人となっております。

ます。達成率が 114.6%ということで、こちらは前回送付させていただいた資料に追加して記載を  
してございます。

次に②番目こちらは、その他指標になりますけれども、県内主要駅 1 日平均乗車人員ということ  
で、前回送付した資料は指標名とグラフのみだったのですけれども、その他指標の評価に使ってい  
るものについては、後ろに括弧書きで、どういう評価になっているかというのを記載しています。  
また下の点線の囲みがございますけれども、その数値をどういうふうに見たかということを追加し  
て記載してございます。この乗車人員につきまして、平成 19 年度の増減率で、平成 17 年に対する  
平成 19 年の増減率ということで数値を見てございます。八戸駅が 4.9%増、青森駅が 0.7%減、弘  
前駅は 0.0%同率ということで、八戸駅が最も高いということで評価はBということにしておいま  
す。次に満足度についてですけれども、前回送付した資料では各項目ごとの数値しか載せていま  
せんでしたけれども、基になっているのは総合計画の各分野ごと、行政分野ごとにアンケートを取  
っていますので、内訳となる関連する行政分野の内訳も追加して記載しております。こちらの満足度  
ですけれども、平成 21 年が 1.36 で、平成 19 年に比べて上昇増加しているという状況でございま  
す。以上の結果を踏まえて、1 ページの上の表になりますけれども、公約事業の実施率が 95.2%と  
いうことで評価はB。そして数値目標について、達成率が 114.6%でA評価。その他指標ですけれ  
ども、B評価の指標が 1 つということで、括弧書きでBとなつてございます。さらに満足度が上昇  
しており、なおかつ 1.36 ということで平均値 1.19 を上回っているということで、BからAに補正  
をしてございます。そして数値目標がA、その他指標がAということで関連指標についてはA。そし  
てこれを公約事業のBと合わせまして、全体の評価をAという形にしております。

あと下に記載してある文面については、前回送付したのものから精査をしているという事と、24 項  
目全体として統一がとれた記載にしているということで、大筋は変わってはおりませんが、若  
干変更になってございます。

最後の総括の部分だけちょっと読み上げますけれども、以上、公約事業は概ね実施させており、  
数値目標は達成され、その他指標も高い水準にあることから、マニフェスト項目全体の評価はAと  
いえるという形に評価しております。以上です。

●委員長 はい、いかがでしょうか。この項目について何かお気づきの点、ご質問ご意見ありま  
すでしょうか。

●D委員伺いますけれども、評価はよろしいかと思うのですけれども、再設定の意味がどこにあ  
るのでしょうか。600 万人という意味というのは。500 万人達成Aでよろしいと思うのですけれど  
も、ただこの中にあえて 600 万人再設定とうたっている意味がちょっと見えないと、こう思ったので  
すが。

●委員長 どうですか、事務局。結局、これは早々と目標を達成されちゃったんで、市として頑張  
るために何か目標を。

●D委員 努力目標ですか。

●**委員長** 作ったということなのです。市の姿勢としては良いと思うのですが、まあマニフェスト評価するときに再設定を認めだすと、これはどっちかというハードルを高くする方なのでいいですけど、逆に言うとも達成できそうもないものを再設定してハードルを下げると、どんどんなんて言うか、今度評価が高くなるわけですね。それで今回のマニフェスト評価としては、再設定する部分は無視して、あくまでも初期段階の数値、4年前の数値と比較して評価をしていく。ただ再設定したというのは、しかし市としては達成された後、頑張るためにさらに目標を高く掲げてやってきました、ということなのです。

●**D委員** はい、わかりました。

●**委員長** 若干、ここは再設定しましたということの意味を、何て言うかももう少しわかりやすく表現するのを工夫したほうが良いかもしれませんね、再設定しましたの。

●**事務局** ああ、なるほど、はい。

●**委員長** 若干、長くなりますけど文句が。

●**事務局** そうですね、資料としてはここにその理由と申しますか、その再設定したところの文言を少し入れてということ。

●**委員長** よろしいでしょうか。

●**委員** はい。

●**委員長** はい、それでは次いきましょう。

●**事務局** 12ページからまいりますけれども、1-②中心市街地の活性化・用途地域の見直しでございます。

18ページをご覧ください。公約事業の実施率については、83.3%ということになってございます。19ページにまいりまして関連指標ですけれども、まずは数値目標の部分ですけれども、中心市街地の通行量ということで、目標値は20万人に対して、最新値は平成20年の10万2,289人ということで、達成率は51.1%となっております。

次の20ページをご覧ください。こちらは事前に送付した資料から指標が二つに②③ということで差し変わってございます。他市と比較できるようにということで、指標を再度設定してございます。②ですけれども、中心市街地活性化基本計画における夜間人口達成増加率ということで、中心市街地活性化基本計画の認定を受けている20万人以上の特例市ということで、甲府市・福井市・鳥取市と八戸市を比較してございます。下の囲みのところですが、平成20年の数値で比較してございまして、八戸市1.8%減、甲府市0.0%、福井市3.2%減、鳥取市は0.3%増ということで、八戸市は比較する他団体の中位に位置しているということで、評価はCというふうにしてござ

います。

③番目、こちらも中心市街地活性化基本計画における空き店舗率ですけれども、数値の比較は八戸市 11.8%、甲府市 17.1%、福井市 17.1%、鳥取市 11.7%ということで、こちらも同様に中位に位置しているということで、評価をCとしてご置きます。満足度につきましては、平成 21 年 0.94 ということで、平成 19 年よりは上昇しているという状況でございます。以上の結果から 21 ページの上になりますけれども、公約事業の実施率が 83.3%で評価はB。数値目標については達成率 51.1%で評価がC。その他指標についてはC評価の指標が 2 つということで、こちらもC。満足度については、上昇はしているけれども得点は 0.94 ということで、平均を下回っておりますので特に補正はございません。数値目標のCと、その他指標のCということで、関連指標もCという形になります。公約事業のBと合わせまして全体評価をCというふうにしてご置きます。

そして最後に総括の文章ですけれども、以上、公約事業は概ね実施されつつあるのに対して、成果を評価するには時期尚早の側面はあるが、数値目標の達成は困難と考えられ、その他指標も一定の水準にとどまることから、マニフェスト項目全体の評価はCといえるというふうに評価をしております。

●**委員長** はい、今回やった事業というのは、すぐ成果がでないというものもあるのですが、しかしまあその他関連指標を含めてみても、やはり非常に類似都市と比べて見ても厳しいというので、まあ全体評価としてはきつめのCということになっております。この点についていかがでしょうか。ありますか、よろしいですか。

●**D委員** Cということは普通ということですよ。

●**委員長** そうですね、普通はそうですね。基準からいくと普通である。

●**D委員** Cというとあまり良いイメージがない。

●**委員長** そうですね。

●**委員長** まあだけどA、Bが目立つ中でCというのは、やはりまあ普通だけど、普通だとやはり努力が足りないということになるのですかね。

●**D委員** 普通と考えれば、まあよろしい。

●**委員長** まあ、そうですね。普通に中心市街地がさびしくなっているということなんでしょうね。DとかEではありませんので。

●**A委員** それと一つよろしいですか。この部分で実施率 83.3%とあるところの少し上の行なのですけれど、この全て実施されているという言葉と、見直しを除いてというこの言葉。この二つがここに並んでいるのが、すごく違和感があるのですけれども。

●委員長 全てを無くしたらいいね、これね。

●A委員 何かそんな感じがするんですけど。

●委員長 うん、そうですね。

●A委員 除いたら、全ては実施されていないのではないのという。

●事務局 除いてという言葉、その辺は取るというよりは、除いてと表記しているところは1個ぐらいしかないよというところを表現していますので、その他の公約事業は全て実施されているとやれば良いかもしれないですね。

●A委員 そうですね。

●委員長 そうですね、だから。

●事務局 まあ、全てを取るか。

●委員長 全てを取るか、ほぼにするかのほうが、やっぱりわかりやすいかもしれません。

●A委員 二つの言葉がここに並ぶのは、ちょっと意味がよくわからないかなという部分。それから今見て初めてわかったのですけれども、この下の部分、概ね評価されているというこの部分で、事業目的のところは困難と考えられ、もしくは事業手法の、前にいただいた資料の中の、事業手法の抜本的な見直しが必要とされるというこの部分は削除されたのでしょうか。

●委員長 事務局どうですか。

●事務局 今後のいわゆる、次の課題みたいな表記はあえてここでは論評しないというような形で全体的に統一させていただいて、前回はですね一部分にそういう表記がございましたので、今回割愛させていただきました。それについても何かあれば、ご意見いただければと思います。

●A委員 ただやはりあの何て言うのでしょうか、数値からだけの評価の仕方だけではなく、やはりこういうふうな文言は必要なのかなと感じるのですけれどいかがなのでしょうね。

●委員長 どうでしょうね。あの最初はあったほうが良いと思って書いたのですけどね。結局あるところと無いところが出てくるのですよ。それで善意で読んでいただくとそっちの方が、政策概念がわかりやすいのですが、悪意で読むと、例えば全体評価は普通とはいえCですよ。

●A委員 はい。

●委員長 何かこういうところに限って何かいろいろ能書きたれて、じゃあAのところは何を書くのかということを行った時に、何か若干言い訳がましい印象が出てくることもあって、書くなら全部書かなければ駄目なのですけれども、こうなると、ここは割と政策ラインが比較的今の状況が限界にきているのでわかりやすいのですけれども、中には関連指標が非常にこの、これから見るのですけれども評価が難しいものもあつたりして、一義的に示すことが難しくなっているという中で、まあ今回はぱっと切ったということですね。その分、不親切になって、おもしろみを欠くことになったのはご指摘のとおりで、しかしその分、客観的にはなったのかもしれないですね。

●A委員 はい。

●委員長 多分そこを書かなくても、大体この指標を見てもうそろそろ今のペースでやっていくのはなかなか難しいというのは、多分読んだ方にはもうご理解いただけるのではないかとと思うのですが。よろしいですか。

はい、それでは次、お願いします。

●事務局 22 ページから1-③八戸ブランドの育成とトップセールスの展開でございます。23 ページの方をご覧くださいまして、公約事業の実施率が83.3%でございます。次の24 ページにまいりまして、関連指標の部分ですけれども、まずは数値目標のところでは商標登録件数です。目標値は平成21年度までの累計10件以上、これは当初の目標です。これに対して最新値は、平成20年度までの累計で33件ということで、達成率が330%になってございます。

次にその他指標の方ですけれども、②番の方は参考ということで、こちらは他団体と比較していないので参考ということです。③の物産展及び行催事開催売上ということですが、平成20年度の数値と比較してございます。青森県40万5,657円、八戸市46万,494円、青森市2万7,588円、弘前市16万8,591円ということで、八戸市は他団体の中位にあるということで、評価をCということにしております。

次に満足度についてですけれども、平成21年1.27ということで、平成19年よりも上昇しております。

以上の結果を踏まえて25ページの上ですけれども、公約事業の実施率83.3%で評価はB。数値目標については、100%超えておりますのでA。そして、その他指標はC評価の指標が一つ。そして満足度については上昇しており、なおかつ1.27ということで平均を上回っておりますので、その他指標をBというふうに補正してございます。数値目標のAと、その他指標Bから関連指標の評価をAと、そして公約事業のBと合わせまして全体評価をAというふうにしております。

総括ですけれども、以上、公約事業は概ね実施されており、数値目標は達成され、その他指標も一定の水準にあることから、マニフェスト項目全体の評価はAといえるという形にしてございます。

●委員長 はい、これについていかがでしょうか。前回の中心市街地の部分が、やや最初の数値目標のハードルがまあたぶん高すぎた。その結果、悪くなつたりする。これはもしかすると最初、少

し低すぎて、それに引っ張られて高い数字になっているのですよね。まあ、しかし全体的に満足度もそこそこで、まあ努力もされたところではあると思うのですが。いかがでしょうか。

よろしいですか、はい、では次お願いします。

●事務局 26 ページから 1-④企業誘致と新規産業の育成・雇用の創出でございます。28 ページにまいりまして、公約事業の実施率は 88.9%になってございます。29 ページにまいりまして、関連指標でございますけど、まずは数値目標ですが、事業所数ということで目標値が 12,000、それに対して最新値平成 18 年ですけれども 11,922 ということで、達成率は 99.4%となっております。

次の有効求人倍率、これも数値目標ですけれども、目標値が 0.50 に対して最新値は平成 20 年度の 0.48 ということで、達成率は 96.0%となっております。

次の 30 ページをご覧ください。県内 3 市の誘致企業数ということで、タイトルが県・が入っておりますが、こちらは県の方はありませんので 3 市で比較をしてございます。平成 20 年度の増減数と平成 17 年に対する増減数ということで比較をしてございます。八戸市 9 社、青森市 7 社、弘前市 3 社ということで、八戸市が最も高いということで評価を B としております。

満足度については平成 21 年 0.71 ということで、平成 19 年よりも上昇しております。以上の結果から 31 ページの上になりますけれども、公約事業の実施率 88.9%で評価は B。数値目標について数値は二つございますが、両方とも B ということでこちらは B になります。そして、その他指標は B の指標が一つということで B。満足度については、上昇しておりますけれども、得点は 0.71 ということで補正はございません。数値目標、その他指標いずれも B ということで、関連指標も B。公約事業も B ということで全体評価も B ということでなっております。

総括ですけれども、以上、市行政の影響度合が限られている分野だが、公約事業は概ね実施されており、数値目標は達成されていないものの、その他指標は一定水準を上回っていることから、マニフェスト項目全体の評価は B といえる。以上です。

●委員長 はい、どうですか

●A委員 この下の部分が、何かちょっと納得いかなかった。

●委員長 下というと、文章。

●A委員 先ほど、事務局に説明いただいたので納得はしたのですが、こういうふうな文章がここに出たときに、それに対して委員はどう思ったかとかあった方が良いように、全てに感じるのですね。

●委員長 さっきと同じですね。

●A委員 はい、そうなのです。

●委員長 それは一貫してそういうふうになるのですよね。

●A委員 そうですよ。

●委員長 例えば、さっきのところは比較的書きやすいのですよ。ここのところはですね、これ書くのが難しいのですよね。というのは、一応何か幸いにして実施率にしても、関連指標にしてもBにはなっておるのですが、あのこれアンケート調査とか見るとやはり満足度が0.71で見られているとおりに、やはり一方で圧倒的に低いのですよ。しかし、市としてはここ随分事業実施も含めてやっけていて、他市と比べたらわかるとおりに、少なくとも今までは健闘してきていて、しかも直近で見るよりは景気にも救われたのでそこそこの成果は上がっているのですよね。しかし、やっぱり暮らしている市民からすると、いやこのくらいでは困ると。もっともっと景気を良くしてくれというのが切実に出ていると。だから書き方としては、一方で、市に頑張れ頑張れと言わなきゃだめだし、しかしその一方で今の景気状況を比べると今よりもさらに悪くなるかも知れないと。こうした中で、まあ抽象的にですね、一定の方向性を書くのはできるかも知れませんが、まあ意味のある形で何か一言いえるかどうかはちょっと難しいなと思ったのですよね。むしろこの現状を正確に理解していただいて、頑張るには頑張るのだけれども、やはりまあ皆さんの希望とは、やはりまだまだ乖離があり、もしかすると今後さらに開くかもしれないと。

●A委員 委員長の今の言葉が、やはりその市民はまだこのBの割には、そんな思っていないよということが、何かこの文言のどこかに入った方がいいような気がして今読んでいたのですけれど。

●委員長 それを読むとすると、満足度のところで一応0.71という記述はしているのだけれども、これが前回からの懸案でね、要するに結局数字いろいろ動かしたのですけれど、うまく数字が動かせないのですよ。この0.71というのは、これに慣れるとかなり低い数字なのです。だからここのところは、満足度は低位で推移していて平成21年は0.71で、平成19年度と比較して0.5ポイント増加しているが、対前年比0.16ポイント減少していると。ここの記述を、これ間違いではないのだけれど、要するにもう少し読みくだいて市としてやってきたのだけれど、しかし市に対する期待は厚くて市民満足度はかなり低い状況に留まっていて、なおかつ直近ではさらに低下しているという文章に変えてもらった方がいいのではないのですか、変えたとこの文章を。そうすると、正確に伝わりますよね。だから、満足度の記述のところを全体的な記述はこの0.71とかね、このままでいいと思うのですけれど、四角内の記述はもう少し何ていうか、この1とか2とか0.71だとか、この数字になじまない、ぱっと読んでもわかる感じで書き換えて支障のないものはそうした方がいいのかもしれないですね。

●D委員 水準的には低いということ、文章の中でわかればいいということですよ。

●委員長 一応書いてはいるのですけどね、満足度は低位で満足している。これは淡々と書いてあるので、隠しているわけではないのだけれども、やや文章を読むとその意図が伝わりづらいということですね。

●D委員 増加はしているけども、依然低位のままの状況が続いているという感じなのでしょうか。

●委員長 ここのところ、少なくともこのマニフェスト項目の中の満足度のところの表記方法は、少し工夫していただくということで。工夫の仕方についてはどうしましょう、今の趣旨を踏まえて事務局と私の方に任せていただくということでよろしいですか。

こういう項目があまり多くなってきたらですね、ちょっと一回みなさんに確認をとってもらう場を考えたいと思います。これは、記述自体は間違っていないので、これをわかりやすくするというにしたいと思います。

●D委員 結局これには、全て項目の説明がつくのですよね、ホームページに載せるときは。

●委員長 そうです。

●D委員 例えば満足度は3点満点ですよと。

●A委員 解説がね。

●D委員 解説がつくのですよね。当然ながら。

●委員長 当然。

●D委員 パブリックコメントを求めるっていうことは。

●委員長 これは評価表の中に書いてないのではない、これ。

●D委員 そうでないと、読んでいる方は0.71がどの程度かわからない。

●A委員 この間議論したのと同じで。

●D委員 そういうことになる。

●A委員 そうですよね。

●委員長 冊子としては入っていないのだ。

●事務局 ルールを盛り込まないとだめだ。

●A委員 そうですね。

●委員長 だから、これも含めて。

●D委員 あえて盛り込むと、この説明がこれでわかる。

●委員長 そうすると、だからこれも付けなければだめですよ。だから、前回議論した満足度指標の見方とルールは、このマニフェスト評価表のこの前のところに乗っかってこないと。

●D委員 だから3点満点で0.71だよという、大分低いなということはあるのだけれども、それが無いと判断する基準がないので盛り込まなければならない。そうするとこの説明でもいいのかという気もしますけれども。

●委員長 そこは全体で、少なくともこの評価表案で出すときは、こちらが入っていなければだめなのです、ルール、説明がね。

●D委員 判断の定規みたいのが必要なのです。

●A委員 そうですね。

●委員長 ホームページ上に出すときには、今度は色を付けてもいいのかもしれませんが。ホームページ上の満足度のところに。

では、その前のところに必ずルールをわかりやすく入れてもらうということと、少し表記方法は工夫していただくと。工夫の仕方によっては、個々の表記のところは必要最小限の訂正で済むかもしれないということです。

それでは次お願いします。

●事務局 32ページからございます1-⑤地場産業の強化と中小企業の安定化でございます。公約事業の実施率は、下にあるとおり100%であります。33ページにまいりまして関連指標ですけれども、数値目標ですが、年間倒産件数目標値は12件に対して最新値平成20年度ですけれども9件ということで、達成率133.3%となっております。

次にその他指標ですけれども、②製造品出荷額です。20年度の増減率になっていますが、19年度の17年度に対する増減率になっています。八戸市26.4%、青森市8.2%の減、弘前市14.8%ということで、八戸市が最も高いということでBという評価にしております。

③年間商品販売額ですけれども、こちらも八戸市1.0%の減、青森市15.1%の減、弘前市7.8%の減ということで、こちらも八戸市が最も高くなっているということで、評価をBとしてございます。

満足度については、平成21年1.33で19年に比べますと減少しております。

以上から、34ページになりますけれども、上ですが、公約事業実施率100%で評価はA、数値目標についても100%を超えていますのでA、その他指標についてはBの指標が二つということでB。満足度については、得点は1.33と高いですけれども、減少しているということで補正はされませ

ん。数値目標のAとその他指標Bで、関連指標はA。そしてこれらの事業Aと合わせまして、全体評価をAとしてございます。

総括ですが、以上、公約事業は全て実施されており、また、数値目標は達成され、その他指標も一定の水準を上回っていることから、マニフェスト項目全体の評価はAといえる。以上です。

●**委員長** はい、いかがでしょうか。これも数字が取れた段階で、良かった数字で、これもこのペースでいくかどうかはあれですけども。

よろしいでしょうかね、これも元々数値目標がありまして、比較的評価しやすいのですが、この後数値目標がなくなってくると、これはなかなか辛いものがありますので、それではここはこれで。はい、では次をお願いします。

●**事務局** 36 ページから1-⑥攻めの水産業、攻めの農業の確立です。39 ページになりますけれども、公約事業の実施率は100%です。関連指標ですけども、数値目標ですけども、水産加工品生産高目標値は8万トンに対して、平成20年ですけども8万2,766トン。達成率は103.5%となっております。

次の40 ページにまいりまして、その他指標ですけども、②漁業生産額でございます。19年増減率ですけども、全国3.3%、青森県全体で0.5%、八戸市0.4%ということで、八戸市が最も低いということで評価をDとしております。

次に③農業生産額ですけども、18年の増減率ということで、全国2.0%の減、青森県3.1%の増、八戸市3.9%の減ということで、こちらも八戸市が最も低いということで、評価をDとしてございます。

満足度については、平成21年1.01で19年度よりも上昇しております。以上から、41 ページの上になりますけれども、公約事業実施率100%で評価をA、数値目標についても100%を超えておりましてA、その他指標についてはBの指標が二つということでB。満足度については、上昇はしておりますけれども、得点1.01ということで補正はございません。数値目標A、その他の指標Bということで、関連指標はB、公約事業Aと合わせて全体評価をAとしております。

総括ですが、以上、公約事業は全て実施されており、数値目標も達成されていることから、その他指標は一定の水準を下回るものの、マニフェスト項目全体の評価はAといえる。以上です。

●**委員長** いかがでしょうか。

●**D委員** ちょっとお聞きしたいのですけれども、前回、前もっていただいた資料では、八戸港②が水揚高になっているけれども、漁業生産額ということになっているのですけれども、これはどういう数値なのですか。前にいただいたのは、八戸港水揚高になっているのが、生産額というのは同じことなのでしょう。

●**事務局** そうです。以前の資料では数量と金額だったので、農業の方は額で比較しておりましたので今回統一したということです。

●**委員長** これは元々漁業の方が高いので、見なくてもまあそこそこののですけれども、農業とかやはりあまり数字が伸びていないのですね。私ももう少し元気があるかと思っていましてけれども、これはどうしてかという数値目標に救われていて、数値目標があってその達成率が100%超えているので全体評価がAになっているのですね。これが無ければ、全体評価がAにはならないのですね。せいぜいB、ないしはものによってはCだったかもしれません。だからマニフェストをつくる戦略からすると、適度に数値目標を見せた方が、数値を上げられるということがあるのかもしれないと思いましたが、これを見たときに、これが事情になっていまして、ですからもう少しこの関連指標どおりとなります。よろしいでしょうか。

●**A委員** あと今ですね、このDのその他の指標のところ、この農業産出額のところに比較というのでしょうか。例えば青森県と八戸市と比較したら、絶対八戸は劣るのはわかっているわけだし、やはり先ほど言ったように類似する人口数だとか、そういうふうなところとの比較という指標というのは無理なんでしょうね。何かちょっと、先ほど先生がおっしゃったように、全体評価がAというのは、その他の指標がDなのに何でAなのという部分が、すごくここを読んでいて感じたのですね。策略ではないのですけれども、やはり私たちの参考指標次第でこうなるのだというのは、ここが如実に出たわけですから。この部分、何か別の参考資料がないかなと、いまちょっと。

●**委員長** 事務局いかがですか。

●**事務局** その件に関していうと、漁業も同じなのですよね。当然八戸は青森県とか、全国と比べれば、水産都市ですので高めには出ると。確かにその辺は、類似都市、例えば漁業何かですと、特産漁港という国の指定、港の指定がありますので、そういうところと比べるとかということも少し考える必要があるのか。あと農業の場合は、そういう意味では東北地域の中で、農業となりますと都市部と比べても多分少しバランスが悪いような気もいたしますので、いわゆる地方圏での同規模都市と比べると、その辺少しご議論いただければと思いますけれども。

●**委員長** 結局同規模となると、普通は人口同規模になるのですよ。そうすると、結局農業については、今合併の影響もあるのですけれども、ほとんど無いところから都道府県並みの算出額があるでっかい市までできてしまっているのですよね。したがって、同人口規模で比べるとかえって数字がばらついて比較しづらいものになります。

●**D委員** もし比べるのであれば、人口というよりも耕作地の農業生産額というのであれば、どうなのかな。耕作地というのはあります。面積が例えば、八戸市は小さいですから。十和田は大きい。その中で算出額というものは、どうなのかという見方はできるけれども、人口ではちょっと無理があるのですよね。

●**委員長** 漁業も農業も分解すると構造的に作物毎に異なるので、作物が当たるか当たらないかで多分算出額にも随分影響を与えるので、分析していくとなるとそういう形になると思うのですが。

●**A委員** 最終目標がいいし、満足度がある程度伸びているのでという形になるのでしょうかけれども、これを市民が見たときに、どうして委員の人たちは全体評価Aなのという部分、必ず説明を付けるとは言ったけれども、このままでは納得してもらえないかなという部分があるのですけれども。八戸のその他の指標の部分というのと、どちらかというのと八戸の現状を表しているわけではないですか。だから、現状が良くないのに。

●**委員長** だからこれは現状ではなくて、数値目標重視でやっている結果、多分本来はせいぜいB、いや場合によってはCのものがAになっているということなのだよ。それはだから、マニフェストバイアスなのです。今回はそのマニフェストの目標自体は、さっきの中心市街地を含めて、良いものも悪いものも動かしていないのでこういう数字になるのだよ。だから一言、ここにやはり一応マニフェスト目標は達成されていて、今回はマニフェスト評価という観点からはAだけれども、八戸市は強かったといわれた漁業、それからある程度面積が大きくなっているこの農業については、今後本当は課題、少し成果が落ちてきているという趣旨のことは書いた方がいいかもしれないですね。だから、最後公約のところ、その他指標は一定の水準を下回るものと、一応事務的には書いているのだけれども、しかしここに血を通わせて、先ほど言ったように今回はあまり次からの課題について意図的に警鐘を鳴らすということは書かないにしても、一応数値目標を達成されている結果Aにはなっているけれども、成果については陰が見えてきているなり何なり、少し表現の仕方を考えてこの区分のところを、その他指標は一定水準を上回りということももう少しわかりやすく記述してもらおうということによろしいですか。

●**事務局** 42 ページ1-⑦新たな時代に向けた人材の育成ということで、47 ページ関連指標ですけれども、①は参考です。②ですけれども、人口10万人当たりの外国語指導助手の人数ということで、この中では八戸市が最も高いということで、評価をBとしています。

③子供の具体的身体能力の平均、50メートル走ですけれども、県と比較しますと高いのです。良いのですけれども、国と比較しますと悪いという形で、評価をCというふうにしております。

48 ページにまいりまして、満足度は平成21年1.31で上昇しております。以上を踏まえて、公約事業は実施率91.7%で評価B、数値目標はございません。その他指標はC。BとCが一つずつということで、低い方を取りましてC。満足度による補正がございまして、CからB。これが関連指標の評価になりまして、公約事業のBと合わせて全体評価Bとしております。

以上、公約事業は概ね実施されており、関連指標も一定の水準を上回っていることから、マニフェスト項目全体の評価はBといえるということです。以上です。

●**委員長** いかがでしょうか。ここの後あたりから評価が難しくなってきました、特に本来成果に相当するものというのが、とても1年や2年、3年では十分に計りきれないと。しかし計りきれないからといってなるべく評価しないのではなくて、可能な範囲でなるべく評価しようというのがここの評価を記していることになっています。今までと同様の手法で評価をしますと、最後に満足度に少し救われてBになっているということですね。この満足度の補正をしないとですね、特に今回ここの部分は学力とかが無いので、運動力の項目が多くなっていて、運動力は確か青森県は全国最低クラスなのですよ、47都道府県中。これはしかし本当は県全体でもっと低いのではないかと

う気もするのですが、まあしかし今回のこのやり方でいくと一応Bになっています。少しやっつてすぐ伸びるというものではないので、ある程度満足度指標も重視して、全体としてはBという形になっているという状況です。いかがでしょうか。

これは最後の文章のところ、新たな時代に向けた人材の育成というのは、行政からももう少し長期で評価しなければならぬという文章を一言入れておいた方が、現時点での努力を評価するとすれば、満足度も一定上がっていること等も含めてこうなっているということですよ。そこも少し若干書き加えた方がいいのではないのでしょうか。

よろしいですか。では、次お願いします。

●事務局 53 ページをご覧ください。⑧多文化都市の推進とスポーツ振興。関連指標ですけれども、①市文化施設入館者数です。八戸市の他団体と比較しまして、中位にあるということで評価をCとしてございます。

②体育施設の利用者数については八戸市が 11.9%と最も高く、増減率ですけれども、評価をBとしてございます。

③④については参考でございます。

満足度については、平成 21 年 1.18 ということで上昇してございます。

次のページにまいりまして、具体の結果ですけれども、公約事業については実施率 88.9%のB、数値目標はございませんので、その他の指標はBとCが一つずつございますので、低い方を取ってCと。満足度について補正はございませんので、そのまま関連指標に変わります。公約事業のBと合わせまして、全体評価をCとしてございます。以上、公約事業は概ね実施されており、関連指標も一定の水準にあることから、マニフェスト項目全体の評価はCということにしてございます。

●委員長 一定水準だからCですけれども、A、Bと比べると落ち込んでいるということですね。落ち込んでいる理由として、多分この文化施設入館者数ですね、これが全てのバロメーターにはならないのですけれども、わかりやすいものとしてこれが比較的伸び悩んでいるというのがあります。それから全体として先ほども話しましたが、比較的皆車を使って、決して皆スポーツを一生懸命やっていないという中で、この全体評価がCというのは一定正確なのかもしれないという気がしていますが、いかがでしょうか。

●A委員 ちょっとお聞きしていいですか。

●委員長 はい。

●A委員 八戸市公会堂のところなのですけれども、他団体施設の中位に位置しているというのは、これは増減率が中位に位置しているのですか。

●事務局 失礼しました。

●C委員 公民館の自主クラブ数が落ちているんですね。

●A委員 そうなると、あれなのですよね。これに市公民館は入れられないのですよね。公会堂文化ホールは入らないのですよね。

●委員長 せいぜい体育施設利用者数が若干増えているくらいで、意外に数字が悪かったのですよね、これがね。これ理由は何かあるのかな。

●C委員 空きのないくらい使っているような感じだけれども。

●A委員 使っていると、そう思うのです。そう思ったので、今聞いたのですけれども。文化ホールが使われているのであって、公会堂はそうでもないのかな。

●事務局 改修したから。

●A委員 改修しました、あの地震のときに。その関係か。

●委員長 我がふるさとの函館市の函館市民会館もそろそろ老朽化して、最新ホールに比べると見劣りして、八戸市公会堂も改修はしているけれども、まあこのくらいの数なのかもしれませんね。

まあ指標は一応これででているということで、これに基づくとやはりこの評価ということで、よろしいですか。

それではこれで前に行くのですかね。

●事務局 1 ページをご覧ください。先ほど 8 項目評価いただいたものを表にしてあります。Aは四つ、Bは二つ、Cの評価が二つという形になっております。

2 ページに総括ということで文章がございます。一段落目は前提ということでございまして、二つ目は事業の取組状況ということで表記しております。

次の段落は関連指標ですけれども、七つの数値目標がありますが、四つが達成、二つについては概ね達成、それから一つは通行量については難しいかなと。そして満足度は上がっています。

3 ページをご覧ください。活力の創出の総括のところ、数値目標というので市民所得というのがございますのでこちらを。目標値は平成 21 年、259 万円に対して最新値平成 18 年度は 274 万円。達成率は 105.8%ということになっております。それを踏まえまして、2 ページの下から二つ目の段落のところですが、公約全体の数値目標の市民一人当たりの所得については達成をしている。これは現在の厳しい経済情勢のもとでは、市民の実感とは乖離があるということから、引き続き取り組む必要がある。

総括ですけれども、今後の成果を待って評価すべき中心市街地の活性化という項目もありますけれども、5 項目で全体評価が B 以上ということで、概ね達成されているものと考えられる。以上です。

●委員長 個々のところで、あまり書かなかつたですけれども、しかし以下のところですね。ここ

では数値目標は達成しているけれども、実感からすると少し乖離しているところがあるということ  
は言及をしています。

●A委員 これって今初めて見るのですよ、私たちは。そうなのですよ。

●委員長 そうです。これは初めてです。

●A委員 この部分の文言というか、これに対してはもう少し意見を言う時間というのは、少しも  
らえますか、1日、2日。それとも今ここで読んで、もう結論ですか。

●委員長 これはだからあらかじめ読み上げたらどうなの。ここだけは、この総括は。時間が無い。

●A委員 時間が無いですか。

●委員長 あらかじめ渡していないので、ここは。

●事務局 人戸市には、観光、商工業、農林水産業などの多様な産業が集積する地域特性があるこ  
とから、人々が生き生きと働き、豊かな暮らしを営むためには、地域特性を最大限に活用した産業  
の振興が必要である。また、個性豊かで、魅力にあふれ活力に満ちたまちづくりを進めるためには、  
次代を担う人材の育成が必要である。

マニフェストは、「活力の創出」のため、8つの項目を掲げ、45の公約事業に取り組んできた。

各項目における公約事業については、すべての項目で実施率がB以上となっており、概ね実施さ  
れている。なかでも、八戸ブランドの育成や企業誘致に力を入れて取り組み、成果が現れていると  
ともに、(仮称)八戸市中心市街地地域観光交流施設や魚市場機能統合整備事業など、これまで困  
難であった課題についても積極的に進めている。一方、「海洋資源活用型バイオ先端技術関連産業  
振興研究事業」や「田向土地地区画整理事業における用途地域の見直し」など、実施に至っていない  
ものも見受けられる。

関連指標のうち、公約に含まれている7つの数値目標については、「観光客入り込み数」、「地域  
団体及び一般商標登録件数」、「年間倒産件数」、「水産加工品生産高」の4項目が達成されており、  
「有効求人倍率」、「事業所数」の2項目については、目標値には到達していないものの目標値との  
乖離は小さいことから、今後、目標の達成は可能と考えられる。一方、「中心商店街通行量」につ  
いては、増加の目標に対して減少しており、現時点では目標の達成は困難となっている。

また、満足度については、平成19年と比較して7項目で増加するとともに、3項目で平均を上回  
っている。なかでも、「来訪者・観光客の招致と「御もてなしサービス」の推進」と「地場産業の  
強化と中小企業の安定化」、「新たな時代に向けた人材の育成」の満足度が高くなっている一方で、  
「中心市街地の活性化・用途地域の見直し」や「企業誘致と新規産業の育成・雇用の創出」、「攻  
めの水産業」「攻めの農業」の確立」の満足度が低くなっている。

以上の取り組みの結果、公約全体の数値目標である「市民一人当たりの所得」は、目標値である  
259万円に対して、最新値の平成18年度は274万円で、平成17年度と比較して27万円増加してお

り、現時点において、数値目標は達成している。しかし、現在の厳しい経済情勢のもとでは、市民の実感とは乖離があることから、引き続き、活力の創出に向けて取り組む必要がある。

公約全体を総括すると、「中心市街地の活性化・用途地域の見直し」のように今後の成果を待つて評価すべき項目もあるものの、6項目で全体評価がB以上となっており、概ね達成されているものと考えられる。

●**委員長** いかがでしょうか。私の趣味で言うと、この一番最初の一段落目にいろいろ美辞麗句が書いていますよね、総合計画風の。こういったものはいらないと言っているのですけれども、事務局は好きなのですよ。

●**A委員** 今まで話をしたことが、何か全部盛り込まれている感じで、私は良いと思います。

●**委員長** はい、それではこれで次にまいりましょう。

●**事務局** 安心の確立で60ページをお開き願います。2-①医療の充実ですけれども、関連指標として①番目が参考、②番目人口10万人当たりの医師数となっております。平成18年数値の比較で、八戸市201.7人ということで、他団体の中位に位置しているということで、評価はCとしております。

満足度については、平成21年1.59で上昇してございます。

総括ですけれども61ページ、公約事業の実施率80.0%で評価はB、数値目標はございません。その他指標は評価がC。ただ満足度が上昇して、なおかつ平均以上ということで補正が入りまして、そのまま関連指標に上がりまして、公約事業のBと併せて全体評価はBとしております。

以上、公約事業は概ね実施されており、その他指標も一定の水準にあるほか、満足度が高い水準にあることから、マニフェスト項目全体の評価はBといえる。以上です。

●**委員長** はい、いかがでしょうか。全国で医師不足でいろいろ騒いでいる中では、八戸市は比較的健闘していて、もちろんまだまだやるべきことはあるのでAとはいかないのですが、実感としてもBというのはある程度正確なところかなと思われるところではあります。よろしいですか。

はい、それじゃあ次、お願いします。

●**事務局** 64ページをお開きください。2-②市民健康維持連携システムの創設。関連事業ですけれども、①基本健康診査受診率ということで、以前お渡しした資料に県平均と全国平均を加えてございます。八戸市は27.6%で最も低いということで評価はDとしております。

②人口1千人当たりの三大死因による死亡者数ですけれども、こちらも全国平均を追加しておりまして、八戸市4.8人ということで最も少ない、良いということで評価をBとしてございます。

満足度は、平成21年1.51と上昇しております。

総括ですけれども65ページにまいりまして、公約事業は実施率100%でA。数値目標はございませんで、その他指標はBとDと一つずつありますので、間を取ってC。満足度の補正がありましてCがBに上がりまして、関連指標の評価になります。公約事業のAと合わせて、全体評価をAとし

てございます。

総括ですが、公約事業は全て実施されており、満足度が高得点であり、関連指標が一定水準にあることから、マニフェスト項目全体の評価はAといえる。以上です。

●**委員長** はい、いかがでしょうか。確かに満足度が高くなっているので、結局CがBになって、AとBの関係でAになるのですけれどね。ちょっと実感に比べると、きついな、高すぎるのかなという気はするのですけれどね。ここもその本来の成果が得られるためには、少し時間のかかる事業なので、したがって現時点の途中経過で、とりあえずはAだということを文章の中に、特に最後の方に明記していた方が正確だと思うのですけれどね。やはり基本健康診査受診率は低い。都市はどうしてもしょうがないのですけれど、決してこの関連指標自体はいばれる水準にはないので。

どうでしょうか。これももしかすると指標を入れ替えると、成績は悪くなる可能性があるのですよね、特にこの三大死因による死亡者数。これを入れ替えると多分悪くなるのですね。

●**A委員** 実施率は100%で、ここで救われている部分というのはあるのですか。ちょっと最初に見たときから、私このAはちょっとあれかなと思ったのですけれども。

●**委員長** だからAでも結局Bくらい水準の成果にならないと、基本的にAかBかによって1ランクは違うのですよね。だから仮にこれが、実施率がBだと全体評価はBになるのです、これ。だから何というのかな、テクニック上、単に計画をつくるだとか、会議をつくるだとか、何というのかな、比較的やりやすい公約事業を掲げておけば、実施率100%になりますよね。だから結果的に全体評価は高くなる傾向はあるのですよ。そうなることを変えなければだめになってしまうのですよ、これが、関連指標と公約事業のランキング表を。要するに100%と80%で、実施率がAとBによって、差がないというふうな前提に立つと、今のA委員の言うことは正しいのですけれども、全体で見ると一応この形は、形としてきれいになっているので、多分問題は公約している中身なのですよね。本来は、この公約事業の貢献度と関連指標の因果関係、影響の強さというのを、明示的にウェイトを考えるようなシステムにしていらないのですよね。だから、その部分は不利に作用したり、有利に作用したりするのが出てくるということです。

●**A委員** そういうことですね。

●**委員長** これは有利に作用しているということ。

●**A委員** 満足度で救われたのですね。

●**委員長** そうです。ただ、いずれにしてもこれを作ったからすぐ健康維持の成果を上げるという筋のものではなくて、少なくとも中期、長期にわたって継続しないとこの効果が出ないので、したがって一応Aから、要するに現時点で経過としてはAだけでも、今後もこれが効果を発揮するかどうかは、さらに長期に今後の推移を注視する必要もあるということは、この評価の中に言及しておいた方がいいのではないのでしょうか、ということでもよろしいですか。

●**事務局** それでは69ページをご覧ください。3番、人にやさしい福祉のまちづくり。関連資料ですけれども、事前に送付したものと他市との比較が入れ替わっておりますけれども、無電中化市道延長ということで、八戸市が一番数値化低かったのですが、八戸市が183メートルで青森、弘前よりも低いということで評価をDとしてございます。

八戸公共職業安定所管内の障がい者雇用率ですけれども、こちらも県平均、全国平均を追加しておりますが、平成20年数値の比較で八戸市1.45%ということで最も低い、こちらも評価をDとしてございます。

70ページをご覧ください。満足度については、平成21年1.14ということで上昇してございます。

総括ですが、71ページにまいりまして、公約事業の実施率が100%でA、数値目標がございませんで、その他指標はD評価が二つということでそのままDです。満足度の補正がございませんで、そのまま関連指標もDとなりまして、公約事業Aと合わせて全体評価をCとしてございます。

総括は、公約事業は全て実施されているものの、関連指標は一定の水準を下回っていることから、マニフェスト項目全体の評価はCといえる。以上です。

●**委員長** これが一番指標設定に苦労したものの一つで、特にこの題目が人にやさしい福祉のまちづくりとかなり広範囲にわたっています。その割には設定できる指標になかなか苦労しまして、その中でも見つけてきたのですが、今回出したものも、全てを象徴しているものとは必ずしも言えないかもしれません。しかし、今回出されたものを見ると、やはり決していい水準にはなっていないと、少なくとも人にやさしいまちづくりができていくとは言えないと。公約したことはやっているのですけれども、そうした中で全体評価をCという形になっていまして、補正もかかっていません、これは。関連指標の評価がそのままになります。

いかがでしょうか。よろしいですか。では、次お願いします。

●**事務局** それでは74ページをお開きください。④子育て支援の拡充です。関連指標ですけれども、人口10万人当たりの保育所（園）の待機児童数です。八戸市5.3人、比較団体の中位にあるということでCの評価をさせていただきます。②、③は参考です。

満足度ですけれども、平成21年は0.87で上昇しております。

総括ですが、75ページにまいりまして、公約事業の実施率は100%でA。数値目標がありませんで、その他指標がC。満足度の補正もありませんで、関連指標はC。公約事業のAと合わせて、全体評価をBとしております。

以上、公約事業は全て実施されているものの、関連指標は一定の水準にとどまっていることから、マニフェスト項目全体の評価はBといえる。以上です。

●**委員長** ここも結局数値目標がありませんので、関連指標の設定に苦労してございまして、王道のように使われる待機児童数をここで使っているのですが、これ以外の指標が意外と比較しやすいですとか、最低基準を示すとか、そういうのが設定しづらくて結局②、③とも参考値にとどまっています。そうした中で、全体の待機児童の動向を主に反映させる形で、それから市民は決して現状では高い満足度を示していないという中、しかし一定の改善傾向も見られるということで、全体として

はBですね。ご覧のとおりですけれども、AとCとBという形になっています。これは的確な関連指標という比較できる、評価できる指標があればもう少し別な評価も可能かもしれません。いろいろと知恵を絞ったのですが、結構苦労したのですよね。どうでしょう、皆さんの方で。東京なんかと比べると5.3というのは全然少ないのですけれどもね。でも、これ日本全国でますます水準が悪くなっていく傾向ですから、これもこの水準を維持するのはなかなか大変かもしれませんが。あと、利用実績は比較的伸びているということですね。

●A委員 保育所の数何かでの比較は無理なのですか。

●委員長 子供の数が減ってきているので、結局は待機児、入りたくても入れない人がいるかどうかということが一応一番の指標になっています。ただ、この入りたくても入れない人というのが、少し勤めたいよという、勤めたいけれども勤められないというそれが待機児になってしまうのですよ。だからこれは、少しハードルが低いという説もあるのですけれども、しかし、やはり子供を措置できているかどうかというのは重要だという観点からすると、これは保育所の数だとか、収容者数よりも基本的には困った人がいないかどうか、つまり待機児童がいるかないかで見るとするのが王道は王道ですね。今、ただ子供は減っている中で、預けたいという子は増えているので、全国的には増える傾向です。八戸市の措置数はどうなっているの、実数は増えているの。

●事務局 減っていると思います、多分。

●委員長 減っている、実数は減っている。直近は増えている地方都市の方が多いですよ、直近には。傾向的には減っているけれども。その分が特殊保育ですよ。特殊保育はやっているということなのでしょうね。平成18年7月に、保育所定数増にしているよね。実数で増えているのではないの。増えている、減っている。

●事務局 サービス利用の実数としては、定員が拡大していますので増えています。

●委員長 はい、よろしいですか。

●事務局 それでは80ページをご覧ください。5番、循環型都市の推進・都市緑化の推進です。関連指標ですけれども、まず数値目標ですが、市民一人当たりのゴミ排出量です。達成率99.6%となっております。

②その他指標ですけれども、人口一人当たり都市公園面積ということで、事前送付したものに全国平均を追加してございます。平成19年の数値の比較ですけれども、八戸市9.6平方メートルということで、比較他団体の中位にあるということで評価をCとしております。

満足度については、平成21年1.69で上昇しております。

81ページにまいりまして、公約事業の実施率は100%で、数値目標について達成率99.6%のB。その他指標はCですけれども、満足度の補正がありましてBとなっております。数値目標、その他指標両方Bということで、関連指標もB。公約事業の結果を合わせて全体評価をAとしております。

総括は、公約事業は全て実施されており、また数値目標は概ね達成され、満足度も高い水準で上昇傾向にあることから、マニフェスト項目全体の評価はAといえる。以上です。

●**委員長** いかがでしょうか。ここのところは、数値目標自体があるので、これが概ね達成されているのが良い評価に向かっていることの一つと、それからもう一つ、意外に指標に見ますと、人口一人当たり都市公園面積が広くはないのです。しかし、都市公園面積ですから、市街化区域の中の緑で、全体としては満足度が高いということで、これが一つ、補正ルールに従って補正されていてBになっていて、結果として全体評価はAになっているということです。これについては、いかがでしょうか。実感としてもそんなに乖離は無いとは思いますが。

よろしいですか。はい、では次お願いします。

●**事務局** 84 ページをご覧ください。⑥地域コミュニティの再生です。関連指標①ですけれども、自治会等加入世帯数ということで、比ベジョーズというベンチマークシステムに入力があった特例市で比較しています。平成19年、20年とありますが、平成19年数値の比較で、八戸市62.4%ということで、他団体の中位になっているということで評価をCとしております。

2番目は参考です。満足度は、平成21年1.40で評価しております。

総括ですが、85ページ。公約事業の実施率100%でA。数値目標はありませんで、その他指標はCですけれども、満足度の補正がありましてBとして、そのまま関連指標の評価になっています。公約事業のAと合わせまして、全体評価をAとしております。

総括ですが、公約事業は全て実施されており、満足度が高得点であり、その他指標が一定の水準にあることから、マニフェスト項目全体の評価はAといえる。以上です。

●**委員長** これはいかがでしょうか。

●**A委員** 満足度が高得点、これ3点満点とおっしゃいましたよね。そうすると高得点ですか。

●**委員長** 平均が1.19なので、1.19を上回るものは一応補正の対象になるということなのですよ、今回のルールはですね。しかし、今回評価の難しいものの中の一つは、この地域コミュニティの再生のところで、自治会加入率は、要するに都市部として低いというわけではないのですが、地方都市として決して威張れる水準ではなくて、安定はしてきて、かなりは落ち込んではいないのですけれども、回復の傾向も特に強くは、若干見えているということですかね。これをどう評価するかと、だったら公民館利用者数が参考値として出ていると。これは他と比較しづらいので、全体的な傾向を見るのにとどめているということですね。どうなのでしょうね、東京とか大都市に比べればある程度コミュニティの再生は進んでいて、しかしこの中で比べるとやはり厳しいところもあって、それ全体で考えると、結果的には関連指標トータルBというのはいい線かもしれないとは思いますが。ただこれも、さっきの公約事業との関連でいうと、AとBだとAになるのですよね。だから、さっきの健康維持システムと同じなのですけれども、本当の地域コミュニティを再生することからすると、コミュニティ計画を策定するだとか、公民館をつくるというのは部分的なことかもしれないですよ。だけど、一応やっってはいるので、今回のルールによると、やはりAですよと

ということになるということがあるのです。

いかがでしょうか。よろしいですか、それでは次お願いします。

●事務局 88 ページをお開きください。7 番、防災・防犯対策の強化です。関連指標ですけれども、①上水道管路耐震化率です。八戸市は 28.3%で、全国平均よりも上回っているということで評価を Bとしております。②人口 10 万人当たりの刑法犯認知件数ですけれども、八戸市 870 件、他団体の中位ということで、評価を Cとしております。③自主防災組織率ですけれども、こちらも八戸市 45.7%で、中位になるということで Cとなります。

満足度は平成 21 年 1.19 となって、減少しております。

総括ですが、90 ページにまいりまして、公約事業は Aで、数値目標はございません。その他指標には E、C、Cという三つの指標になりましてので、重なっている Cを取ってその他指標の評価としております。満足度の補正はございませんので、関連指標も Cとなりまして、公約事業 Aと合わせて、全体評価を Bとしております。

総括は、公約事業は全て実施されているが、関連指標は一定の水準にとどまることから、マニフェスト項目全体の評価は Bといえる。以上です。

●委員長 一応、公約したことはやったけれども、実態的に見ると普通、Cですね。満足度評価も低いので、全体評価は Bです。これもなかなか指標を取るのにも苦労しまして、上水管の耐震化率だとかを見てはいるのですが、自主防災組織も形式的につくっているかどうかよりも、これが実働しているかどうかということの方が重要なのかもしれません、これもなかなかそこまで見ると、比較もできませんので、とりあえず率を見ていくということになりました。しかし、評価として、関連指標が Cだというのは、実感としてはいい線なのかなという気はしていますが、いかがでしょうか。

●C委員 この満足度アンケートの災害復旧は、水道事故も関係あるのでしょうか。

●事務局 ええ、大ありですね。迅速な災害復旧のところ、満足度がドンと下がっていて、これが影響して全体の満足度を押し下げている。

●A委員 この前のね。

●事務局 時期的なものですが。

●委員長 これはもう下がってもしようがないですね。

●A委員 そうですね

●委員長 いいですね。それでは次お願いします。

●**事務局** 92 ページ、定期的な市政モニタリング調査の実施です。こちらの満足度なのですけれども、平成 21 年 1.10 で上昇しております。

総括ですが、公約事業は評価 A です。数値目標、その他指標ともございませんので、全体評価も括弧書きの A ということになります。総括として、参考となる適切な指標は設定していないが、公約事業は実施されており、満足度は上昇傾向にあることから、マニフェスト項目全体の評価は (A) といえる。

●**委員長** この (A) というのは、この後 3 のところで多いのですが、結局関連指標が一切付けられないものなのです。今までも人材育成とか、スポーツ振興だとか、本当は成果を見るのに少し時間をかけなければならないものも、もしかしたらある程度関連指標が、しかし推測できるものは設定して考えているのですが、これ以下、特に次の 3 のところが多いのですが、やるかやらないかだけで、本当の成果が計られない、計りづらいものが並ぶのです。一応関連指標が設定できないものは、公約事業の評価をもって同じ評価にしていますが、しかし、この意味は結局関連指標、成果指標を含めて A というのと、それをカウントしないで A というのでは、随分重みも違います。それで、とりあえず全体評価は A で示していますけれども、括弧、場合によっては全体の関連指標が無いので、全体評価も無くて、ただやることはやりましたという、実施部分だけは残っているという評価ですという意味で、この括弧を付けさせていただいているということになります。この点を含めていかがでしょうか。この括弧のルールも、どこかで最初にわかりやすく書いておかないとだめでしょうね。

これは何かいい関連指標があるといいのしょうけれども、無ければとりあえずこの公約実施率だけは基本的に示すというものを、今回は作らざるを得なかったということです。

●**A 委員** 例えば、回収したアンケート何かの、数を参考指標として出しておいても、どのくらいの人から、どのくらいのモニタリングができたのだというのは関係ないですか。関係ないわけですか。

●**事務局** 多分、だからこれは、市政モニタリングをやる意義というのは、文字通り市政モニターの中で何か上がってきて、それがダイレクトに活かされることもありますし、それから市政モニターをやるということを前提に、職員が日々市民の目線を気にして業務にあたってもらおうという効果もあると思うのですよ。いずれにしても、ここの部分だけ取り上げてうまくいっているかといってないかというよりも、市政全体で考えて良くなっているか良くなっていないかというところに、ある程度に戻ってくるところもあると思うのですよね。今回の満足度調査でもこの項目で見ると、少し聞き方や集計の仕方を変えると、A 委員の言われているようにもう少し的確にこの部分だけでも、関連指標を設定できるようになるかもしれませんけれど、今回はなかなか、妙案が無かった感じなのですけれどね。よろしいですか。

●**A 委員** はい。

●**委員長** それこそ、今度またマニフェストに盛りられたり何かしたら、今度の評価の仕方、もう少し分析できるような評価をあらかじめ考えながらやっていくということにしたいと思います。

はい、ではこれに基づきまして総括評価をお願いします。

●**事務局** 57 ページをお願いいたします。安心の確立の全体の数値目標は達成されておりませんが、半分の満足度となっております。基準値が平成 19 年 1.18 に対して、これを 2 倍にするということで、目標を 2.36。最新値が平成 21 年 1.29 で、達成率は 54.7%となっております。

それらを踏まえまして、55 ページをご覧ください、これまでの八つの項目の総括が載っております。A が括弧書きを含めて四つ、そして B が三つ、C が一つとなっております。

次の 56 ページが総括の文章ですけれども、読み上げます。市民一人ひとりが、安全・安心で快適な生活を送るためには、医療や福祉の充実とともに、地域コミュニティの活性化や防災・防犯対策の強化が必要である。また、環境問題は、市民の日常生活と密接に結びついていることから、環境負荷の低減や、限りある資源の有効活用が求められている。

マニフェストは、「安心の確立」のため、8 つの項目を掲げ、28 の公約事業に取り組んできた。

各項目における公約事業については、7 項目で実施率が A となっており、ほぼ実施されている。公約事業に対応する実施事業としては、ドクターヘリの導入や医師確保、ごみの減量化、住民自治推進懇談会の開催、安全・安心のまちづくりなどに力を入れて取り組んだ結果、それぞれに成果が現れている。

関連指標のうち、公約に含まれている数値目標である「市民 1 日当たりのゴミ排出量」については、目標値には到達していないものの概ね達成されている。

また、その他指標のうち、「人口 1 千人当たりの三大死因による死亡者数」や「水道管路耐震化率」が他団体と比較して評価が高くなっているのに対し、「障がい者雇用率」は評価が低くなっている。

満足度については、平成 19 年と比較して 7 項目で増加するとともに、4 項目で平均を上回っている。なかでも、「医療の充実」や「市民連携維持システムの構築」、「循環型都市の推進・都市緑化の推進」、「地域コミュニティの再生」の満足度が高くなっている。一方、「子育て支援の拡充」に対する満足度が低くなっている。

以上の取り組みの結果、公約全体の数値目標である「安心度と満足度」は、目標値である 2.36 点に対して、最新値の平成 21 年は 1.29 点となっており、満足度は年々増加しているものの数値目標は達成できなかった。しかし、そもそも安心度・満足度を測定することは困難であり、数値目標として設定すること自体に無理があるのではないかと考えられる。

公約全体を総括すると、7 項目で全体評価が B 以上となっており、概ね達成されているものと考えられる。

●**委員長** ちょっと泣き言が目立ちすぎるのではないの、いきなり。だから安心度・満足度について、特に今回の 2 のところは、比較的成果が計りやすいものと、成果を長期にわたって継続的に見なければならぬものがある、そこのところは成果の評価の仕方も踏まえて考えなければだめだということだと思うのですよね。安心度・満足度というものは、特定のものには左右されないけれど、漠然と抱く安心度・満足度ってありますよね、それはね。ここは国民調査にしても、八戸市のなんとか調査にしても。ただ逆に、安心感を測定すること自体が困難で、数値目標として設定すること自体に無理がある。今回のこの目標が課題だったというのはね、いいとは思うのだけれど、こ

これは今度満足度・安心度と測定の仕方にもよるし、こういうのはちょっと、しかし以下は、ここまでするのには少し言い過ぎではないの。だから、安心度・満足度の測定の仕方を工夫するということは、課題として挙がるし、それから、この満足度・安心度というのは継続的なまちづくりの結果に出てくので、長期に時間が掛かるといふこと。この二つを書くべきで、ここまできて、今までその他関連指標いっぱい設定してきたのに、その努力を無理と言ってしまうと終わりで、ここは少し修正すべきではないでしょうか。いかがでしょうか。よろしいですか。はい

●事務局 99 ページ、3 の行革と参画の①、周辺自治体との連携と合併の推進、中核市指定です。満足度ですけれども、平成 21 年 1.29 で上昇しております。

総括ですが、公約事業の実施率が 100%で、数値目標、その他指標はありませので、全体評価は (A)。総括は、参考となる適切な指標は設定していないが、公約事業はすべて実施されており、満足度得点も上昇傾向にあることから、マニフェスト項目全体の評価は (A) といえる。以上です。

●委員長 いかがでしょうか。これもまだ現時点では、努力はしているのですけれども、それ自体が市民に、本当に満足度アンケートのとおりかというのは、まだ十二分に評価できないということもあって、(A) ということになっています。これは今後ダイレクトに満足度調査を聞いて、マニフェスト項目毎に、それで満足度を聞けば、ある程度参考になる指標が出ると思うのですが、今回はそういう聞き方していなかったんで、満足度調査も結果も一応参考値ということで、とりあえず括弧つきの A ということになっています。

それから、実施事業を A と評価するかどうかということにつきましては、元々最初この周辺自治体との連携を考えた時に、合併ですとか、最終目標の中核市ということを中心すると、もう少し進捗率は低くてもいいのではないかという見解もあります。今は無いですが、丁度この文書の中にありますとおり、その連携の形として、定住自立圏という構想が展開されていまして、この定住自立圏の中では八戸市は全国 24 の先行団体の内の一つに選ばれて、先駆的に連携の形をつくっているということもあって、進捗状況は A ということになっております。これについてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

●事務局 それでは 102 ページ、行革大綱の策定・無駄の削減と民間委託の推進です。関連指標ですけれども、経常歳出の削減ということで、達成率は 85.1%となつてございます。

103 ページにまいりまして、その他指標ですけれども、②人口 1,000 人当たりの職員数ということで、八戸市 5.22 人ということで、全国、県よりも少なくなっている、良いということで評価を B としています。

経常収支比率ですけれども、19 年の数値、八戸市 88.5%で全国平均、県平均よりも下回っている、良いということで評価を B としております。

④実質公債費比率ですけれども、19 年の数値ですが、八戸市 17.4%で、全国、県よりも下回っている、これは最も高い、悪いということで評価を D としております。

満足度は、平成 21 年 1.18 で上昇しております。

総括ですが、104 ページにまいりまして、公約事業は実施率 87.5 で B、数値目標についても B、

その他指標ですけれども、B、D、DということでしたのでB。満足度の補正がございませんので数値目標、その他指標ともにBということで、関連指標もB、公約事業Bと合わせて全体評価Bです。総括は、公約事業は概ね実施されており、現時点で数値目標は達成されていないが、平成 21 年度には達成の見込みであり、その他指標も一定の水準を上回っていることから、マニフェスト項目全体の評価はBといえる。以上です。

●**委員長** はい、いかがでしょうか。実施率が低かったのは市場化テストの導入をやっていなかったものが一つということですね。成果については、厳しい経済状況の中ではそこそこ上々の成績というところだと思います。よろしいでしょうか。はい、次お願いします。

●**事務局** 106 ページをご覧ください。③必要な行政投資の推進です。関連指標ですが、①人口 10 万人当たりの投資的経費決算額ということで、八戸市 37 億円ということで、他団体の中位となりますので、こちらの評価をCということです。

②投資的経費の構成比ですけれども、こちらも八戸市 10.8%で、中位にあるということで評価をCとしています。

満足度は平成 21 年 1.20 で上昇しております。

総括ですが、107 ページにまいりまして、公約事業の実施率は 0 ということでEとなっております。数値目標はございません。その他指標ですが、Cが二つということでCですけれども、満足度による補正がありましてBとなっております。これが関連指標に上がりまして、公約事業のEと合わせて全体評価Dとしております。総括ですが、公約事業は実施されていないことから、関連指標は一定の水準以上となっているものの、マニフェスト項目全体の評価はDといえる。以上です。

●**事務局** これは、成果指標、関連指標を見ていただくとわかるのですが、結果的にはそこそこ良好な状況ではあるのですが、書いたことをやってないとか、ミニ公募債それからPFI、やらないで困っているということでは無いんですけれども、これでも一応充分財政運営はしているのですけれども、しかし、公約事業はやっていないと。やっていない中で今回のこのマトリクス評価をすると、仮にBでも全体としては普通、ないしは良くて普通で、悪くてDと言うことで、それより悪いという評価になります。ある意味では、少し成果関連指標だけから見ると違和感があるのですけれども、今まで逆に軽い公約事業を公約して、割りと成果に救われて全体評価が高くなっていたものがある反面、逆にこういうように、関連指標は良いのだけれど、公約したことをできないものがDという評価になるという例になります。ですからやや厳しいですが、ルールどおり、今までの経緯からすると、やはりこの全体評価はDということになります。その理由は、一応書いたことはやりもしなかったということですね。やらないことでの理由はあったのですけれども、やらなかったということですね。一応この評価になっています。よろしいでしょうか。はい、次お願いします。

●**事務局** 111 ページをご覧ください。電子自治体の推進です。関連指標ですが、①は参考です。

②e 都市ランキング総合得点ですけれども、事前送付のものに盛岡市、秋田市を加えて、追加してございます。平成 20 年の数値で、八戸市 53.9 点ということで、他団体の中位にあるということで評価をCとしております。

満足度は、平成 21 年 1.13 上昇しております。

総括ですが、112 ページにまいりまして、公約事業の実施率が 62.5%でC。数値目標はございませんで、その他指標はC。満足度の補正もございませんので、関連指標はCということで、公約事業と合わせて全体評価はCです。公約事業は実施されていないものが幾つかあるものの、関連指標が一定の水準を維持していることから、マニフェスト項目全体の評価はCといえる。以上です。

●**委員長** いかがでしょうか。これも大きかったのはインターネット関連とコールセンター。コールセンターは人口 100 万とかですね、人口 50 万とかある程度人口が大きいところはやって一定の効果があるのですけれど、ちょうど 20 万から 30 万くらいの団体で、實際上入れたほうが良いかどうかというのはなかなか微妙なところで、これが検討段階にあるということですね。ですから、これも検討段階にあるということ自体は、決して責められるべきことではないのですが、とどまっているということの評価するとやはりこうなると思います。

それともう一つ、インターネットのように技術革新の激しいものは、なかなか当初公約していたイメージと、その発展・進展するイメージというのは、4 年も経つとずれることがあるのですが、これも概して見ると世間並みには進んでいるのですけれど、公約したことを念頭に、更に著しく進むという状況がないといけないということで、実施率もCで、関連指標もC。普通にとどまっているというのが、この評価になります。いかがでしょうか。これも随分苦勞して、都市評価をもらってききましたので、②e 都市ランキング総合得点と、この評価表は何か入れ替えれば良かったのかも知れませんが、実感からいっても、著しく劣っているということもないですし、すごく進んでいるということもないのかもしれないかもしれません。よろしいでしょうか。

●**D委員** e 都市ランキングというのは、ちょっと話変わるのですけれども、かなりの項目で出てきている数字ですか。

●**委員長** どうですか。

●**事務局** 調査項目はですね、5 分野で調査しています。WEBサイトの情報サービスとかですね、あとはアクセシビリティの対策。あと庁内の情報化。あと情報化の行政政策。あとセキュリティ対策の 5 分野で、100 点満点で評価しています。

●**委員長** チェックポイント幾つあるの、5 分野合計で。お聞きになられているのはそれですよ。

●**事務局** チェック項目はかなりありまして。それぞれ分野毎に 40 点とか、何点とか点数の重みづけが違うのですけども。

●**D委員** 結構、細目にわたってのチェックですか。

●**事務局** 各自治体で細目にわたる調査票に回答した結果に基づいて得点化したものです。

●事務局 一応これが、大きな根拠になってCという評価ですね。よろしいですか。

●事務局 114 ページをお願いします。「出前市役所」の開催ということで、満足度の数値は平成21年1.10で上昇しています。

総括ですが、公約事業は実施率A、そして全体評価も(A)となっております。

参考となる適切な指標は設定していないが、公約事業は着実に実施され、満足度得点も上昇傾向にあることから、マニフェスト項目全体の評価は(A)といえる。以上です。

●委員長 これは、満足度アンケート調査の結果ではなくて、直接この出前市役所について参加したかどうか、満足したかどうかと、これに意義があるかと聞くと、一応これできると思うのですよね。これは、全体の広報広聴体制の充実と行政サービスの向上という大きな科目の中の、多分この中に幾つか表れているだろうという間接的な評価なので、これは頑張っただけではいるので成果も出しているのかもしれませんが、しかし、やっただけではいるけど成果は上がらないということで(A)という評価になっております。よろしいでしょうか。はい、次をお願いします。

●事務局 117 ページになります。ボランティア・NPOとの連携強化です。関連指標はボランティア数です。達成率は236.2%となっております。

118 ページにまいりまして、その他指標ですけれども、②人口10万人当たりのボランティアセンター登録団体数ということで、事前送付したものと10万人当たりで見ている所が変更になってグラフが差し変わっております。八戸市は91.2団体ということで、他団体の中位にあるということで評価をCとしております。

満足度は平成21年1.36で上昇しております。

総括ですが119ページにあります。公約事業の評価はAと、数値目標も達成率100%を超えてA。その他指標はCですけれども、満足度の補正がありましてBになっております。関連指標はAになりまして、公約事業のAと合わせて全体評価Aという形です。

総括ですが、公約事業はすべて実施されており、数値目標は高い水準で達成され、満足度も高い水準にあることから、マニフェスト項目全体の評価はAといえる。以上です。

●委員長 もうこれは、数値目標があっても一部助けられている部分もありますが、関連指標全体で見てもそこそこ、満足度に関しても一定の上昇が見られるということから、これがなくても関連指標はAないしB、多分トータルで見るとA、比較的できる範囲で行政も努力してきて、ですからボランティアやNPO関係は、先程自治会と比べても多分Aですね、評価できるのではないかなというふうに思うのですが。いかがでしょうか。

●A委員 関係の無いことで聞いていいですか。地域コミュニティの振興の所の満足度が、断トツ高いのですけれども。満足度の調査は、こういうふうなものに関わった人だけの調査ではないですよね。一般市民も入っていますよね。

●事務局 市政モニター100名です。

●A委員 それも入っているのですよね。だったら大丈夫です。

●委員長 だから市政モニターなのです。通常のいわゆる世論調査とちょっと違うのだよね。

●A委員 だとすると、これって結構、なんか特化して褒めてあげてもいいのかなど。

●委員長 よろしいでしょうかね。これ本当は、地域再生が2にあって、NPO関係が3にあるっていうのは、見る場所としてはちょっと違和感があるのですけれど。マニフェスト構成上こうなっていますからしょうがないのですね。はい、では次、3の7お願いします。

●事務局 122ページになります。こちらも満足度のみで、平成21年1.10で上昇しております。

公約事業の実施率は、評価Aということです。全体評価は(A)となります。

参考となる適切な指標は設定していないが、公約事業は着実に実施され、満足度得点も上昇していることから、マニフェスト項目全体の評価は(A)といえる。以上です。

●事務局 これも結局、実施をやっていることはありますけれど、成果については現地点ではわからないので、これも(A)という形になって、一応括弧を付けさしてもらっています。よろしいでしょうか。

●事務局 124ページです。市役所の利便性向上と市政アドバイザーの新設ですけれども、満足度のみで、平成21年度1.10と、公約事業も実施率100%でA、これもそのまま全体評価(A)になっております。総括も先程と同様です。

●事務局 これも同じようなもので、公約とおりにやっちはいるのですけれども、その成果は現時点ではちょっと見られないし、見るためにはアンケート調査の仕方を工夫するか何かしなければならぬということ、これも一応実施だけを根拠に考えていますので、一応(A)という表記になっています。よろしいですね。これを基に全体評価をお願いします。

●事務局 93ページをお開き願います。これまでの8項目をまとめたものになります。Aが五つ、(A)が四つありますけれども、B、C、Dがそれぞれ一つずつになっております。

総括ですけれども、94ページになります。読み上げます。限られた財源の中で、多様化・高度化する市民ニーズに対応するためには、行政は効率的な財政運営のもと、市民満足度の高い柔軟な行政運営を行う必要があるとともに、市民やNPO、事業者と役割を分担し、連携・協力していく必要がある。

マニフェストは「行革と参画」のため、8つの項目を掲げ、19の公約事業に取り組んできた。

各項目における公約事業については、5項目で実施率がAとなっており、概ね実施されているものの、「必要な行政投資の推進」については、「ミニ公募債の発行」と「PFIの活用」は、手法として検討はされたものの実施には至っておらず、実施率はEにとどまっている。公約事業に対応す

る実施事業としては、定住自立圏の形成や行財政改革、協働のまちづくりに力を入れて取り組んできた一方で、電子自治体の推進については思うように進んでいない状況にある。

関連指標のうち、その他指標については、「人口 1,000 人当たり職員数」が、他団体と比較して評価が高くなっている。「3 行革と参画」については、他団体と比較し水準の特定を行うことが可能なその他指標を設定できなかった項目が多いため、公約事業の実施率に対する評価が、そのまま全体評価になる傾向にある。

また、満足度については、平成 19 年と比較してすべての項目で増加するとともに、2 項目で平均を上回っている。なかでは、「ボランティア・NPOとの連携強化」の満足度が高くなっている。

以上の取り組みの結果、公約全体の数値目標のうち「経費節減等の財政効果」については、目標値には到達していないものの、平成 21 年度には達成の見込みとなっている。また、「行政を補完してもらうボランティア数」については、すでに達成済みであり、目標を大きく上回っている。

公約全体を総括すると、6 項目で全体評価が B 以上となっており、「必要な行政投資の推進」については公約事業の実施率が低いため全体評価が D となっているものの、公共投資自体は年々増加していることから、概ね達成されているものと考えられる。以上です。

●**委員長** いかがでしょうか、これは記述の仕方ですけれど、例えばこのその他関連指標について、人口 1,000 人当たりの職員数が他団体と比較して評価が高くなっているという言い方するよりも、他団体よりも人口 1,000 人当たりの職員数が少ないということですよね、これね。必要な行政投資の推進については、ここはなくて、ミニ公募債の発行や P F I の活用は手法として検討されるにとどまって、実施されていないと。そうすると実施率は E にとどまっているということは、繰り返さなくても良いかもしれない、ここは全体として少し、ここだけ読んで違和感無く、入り込めるような言い方にするように少し心掛けてください。前の所、少し直っていたのです。ここは少しややガキガキガキしている表現になっています。以上どうでしょうか。

●**A 委員** この (A) の説明も相当必要だということですよ。

●**委員長** (A) ね、括弧ね。それはだからちゃんと書いた方がいいですね。

それから、この最後の文章ね、公約実施率が低いため全体評価が D となっているという言い方よりも、結局 P F I とミニ公募債はしなかったものの、全体としては必要な行政投資を確保しているから概ね達成されたということだよ。そう書かないと、公約実施率が低いため全体評価が D となって概ね達成されているということだと、やはり違和感がありますよね。その辺は、ここに書いてあることは間違いではないのだけど、少し噛み砕いてわかるような記述に、少しもう一度精査して直してみてください。

以上ですね。これで大体一とおり全部ですが、全体を通してみなさんの方からお気付きの点、ありますでしょうか。

修正の他に、今日した今の議論された方向の範囲内で、この後事務局の方にしていただいて、少し項目数がありますので、みなさんに集まってもらうことはしませんが、事務局と相談で一部書き直したものをパブリックコメントに先立てて皆さんの方にお送りして、それで一応、皆さんが確認を取った上でパブリックコメントにかけるということにしたいのですが、それでよろしいでしょう

か。主に、今回は中身というより表現の仕方、今回特に非常に客観的にやることにしましたので、やや複雑になっていますので、より分かりやすく、客観性は損なうことなく、より分かりやすくということを中心掛けてもらって、今いった表現の問題もなるべくスムーズに、一部つまみ食いして読む人にもなるべくわかりやすいような表現にさせていただくということで留意したいというふうに思います。手続きは、このやり方でよろしいですか。

●A委員 感想を言ってもいいでしょうか。ルールを決めた以上は仕方のないことなのですから、満足度から追っていった、ちょっと少し優しい評価になっちゃったかなと私感じるのですけれど。

●委員長 全体としてはですね。だから満足度が補正で下げるものと上げるものに関しては、両方、可能性としては50%50%なのですから、結果的には満足度評価によって救われるものの方があったという点では、それはそのとおりでしょうね。

●A委員 優しい評価があったのかなって感じがちょっと、見ていて感じたので、感想です。

●委員長 その分、ですから一応、今回は各個別評価の中に、それぞれのその他関連指標、しかしその他関連指標についても動いたものに関しては矢印を示して動かしていますので、一応動かさないものの現況についても、一応分かるようにはしてあるということで、一定の客観性はあったということだと思います。問題なのは、この満足度指標。今回はこれに変わる満足度調査は無かったので、これを使ったわけなのですが、仮にまた新しいマニフェスト作って、これを実施いくということになると、やはりこの項目に則して、どういうことをやったかという情報公開をして、それに基づいて無作為抽出なら無作為抽出で、市民の皆さんにどう思っているかということの評価してもらうという手続きをした上で、この満足度調査を活かすというやり方を取るべきではないかというふうに思います。今回、満足度調査のこの結果の詳細を見る前までは、もう少しこの満足度調査をもっと重視するつもりでいたのですが、しかし今A委員が言われたように、全体的に甘い評価になっているので、かなりこれでも満足度調査の使い方は抑えた形にはしています。だから、その分その他関連指標の方のウェイトを強くしました。しかし、それでもやはり満足度指標を使用しましたので、やはりそれは何らかの形で、市民全体の意見を反映させたいという形を作りたいということもありますが、しかし、そこはやはり課題として残るとするのは、A委員の言われるとおりではないですかね。あといかがでしょうか。

本当はだから最後に、作文できるかどうかわかりませんが、今言った方向の限界、満足度調査が今回はストレートにこの満足度を測るようなものになっていなかったの、こうなるというのをどこか最初の説明をする部分か、どこか後の部分に違和感無く書けたら書けていた方がいいかもしれませんね。しかし、変に書くと、その作文の技術が難しくなると、また変な印象を与えてもあれなんで、いずれにしても、書くか書かないかも含めてちょっと事務局に、今の部分について後で、いずれにしても前にルールを載せなければだめなので、そこの部分のルールを的確に、嘘偽り無くちゃんと示せるかということで、今の部分については、今回は少し変えていただいて、皆さんに再度確認をいただくということにしたいと思います。あと、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、3 のパブリックコメントの実施について事務局の方から説明をします。

●事務局 資料 10、パブリックコメントの実施について、案をご覧ください。目的ですけれども、マニフェストの達成状況に対する市民の意見を聴取するというので、実施期間は先ほど見ていただいた評価がまとも次第、パブリックコメントにかけたいというふうに思います。実施方法は郵送、Eメール、FAX、持参によるということで、電話では受けないということですね。関連資料閲覧場所ですけれども、市のホームページに掲載する他、南郷区役所、市庁別館・本館、そして政策推進課。また各支所、公民館に配置したいと思います。関連資料ですけれども、概要の説明の資料と、またこれまでの委員会の会議資料として出しました資料ですね、そして今回作成したマニフェスト評価、そして応募用紙。意見の取り扱いですけれども、提出された意見を取りまとめ、ホームページ上で公表する。氏名等は公表しない。意見に対する回答もしない。意見の整理方法ですけれども、次回7月3日の第4回委員会で整理方法を検討・決定する。整理例ですけれども、趣旨に沿わないもの、意味不明のものを削除する。マニフェスト項目等により分類しまして整理するというので、整理した意見はホームページに掲載いたします。その他ですけれども、委員会で作成するマニフェスト評価に対する市民意見を聴取するものではないということで、そちらは明記をしたというふうに考えております。以上です。

●委員長 ちょっと8のしかし、①の書き方が逆にちょっと分かりづらいのではないかな。マニフェストの原案を見ていただいて、それでどこをどう思うかという意見を基本的にいただくわけなので、それはどんな意見が出るかわかんないよね。要するに、ここでこう書いてあるのは、意見出されたことをそのままこのマニフェスト評価の中に組み入れるということでは必ずしも無いということで、ここにこう書いていると思うのだけれども、こう書きちゃうと、何かこれに対して文句言うなど言っているように、何か誤解されるかもしれないね、この書き方をすると。だから、マニフェスト出されてきたものに関して、その中身を見て整理をして、こういう意見が出されましたということはもちろん出して、その各パブリックコメントを見て、こちらで気が付かなかった点があれば、それを含めて修正して出すことになって、だから何を言っても全てこれに載せるということではないという意味では、このとおりなのだけれども、だからあえてこの8のその他のこの記述のところは書かない方が、意見が出やすいと思うのですけれどもね。よろしいですか。みなさんどうですか。

これも、書き方や出し方も含めて、最後に出す直前に一度これを直したものの、皆さんに確認していただきますので、その時点で確認をして出すということにしたいと思います。それでは、次回で最後の委員会の予定ですが、今回、パブリックコメントに出す前に、一応確認は取りますが、改めて皆さんにパブリックコメントを出した案を提出すると同時に、次回パブリックコメントの結果を整理して示して、最終形態の確認を取るという形にしたいと思います。次回の予定は7月3日ということになっておりますが、皆さんそれでよろしいでしょうか。

●C委員 場所はどこになりますか。

●事務局 場所は第2委員会室。

●**委員長** 時間は決まっていないの。

●**事務局** 1時半から3時半までです。

### 3. その他

●**委員長** それでは、次回は市民意見を踏まえながら、最終的に評価を取りまとめて、市長に次回は提出したいと思いますので、よろしくお願いします。

以上、本日の審議案件全てこれで終了しました。皆さんの方から本日の案件以外、その他何かありますでしょうか。よろしいですか。

●**委員長** 予定通りの超過となりましたので、申し訳ありませんが、これで司会の方はお返ししたいと思います。

●**事務局** それでは、先程もお話しありましたが、次回は7月3日、午後1時半から3時半まで、本館の第2会議室を予定しております。資料の方も修正が済み次第、速やかに皆さまに送らせていただきたいというふうに思っております。それと本日の謝礼につきましては、6月24日に振り込むようにしております。

それでは、これを持ちまして、第3回八戸市市政評価委員会を終了させていただきます。本日は、どうもありがとうございました。

### 3. 閉 会（午後1時10分）